全体概要

検証から構築、運用・保守サポートまで、OSSのトータルサポートサービスを展開

時代の先端を行くトータルソリューションプロバイダーとして、顧客のITライフサイクルのすべての場面で、最適なサービスを提供する伊藤忠テクノソリューションズ（以下、CTC）。OSS（オープンソースソフトウェア）活用に対するニーズの高まりを受け、システムの構築から運用・保守サポートまで、これまでの経験・実績に基づく高度な技術力を活かしたOSSのトータルサポートサービスを展開している。

高度な技術力をベースにOSSの活用を積極的に支援

OSS（オープンソースソフトウェア）は、ICTシステムのあらゆる領域において活用されてきている。基本ソフトウェアからWebサーバソフト、APサーバソフト、データベース、さらに最近ではサーバ仮想化ソフトや大容量データを並列処理するHadoop、Ruby、Pythonといったプログラミング言語なども利用され、活用の幅が拡大している。このようにOSSの活用が拡大している最大の要因は、TCOの削減とベンダーロックインの回避だ。しかしOSSの活用が拡大しているとはいえ、OSSに精通した技術者のいない企業や団体にとっては、パッチやバージョンアップ情報の収集方法、脆弱な保守・サポート体制など、商用ソフトウェアの利用時には考える必要のなかった課題を解決する必要がある。

CTCは、OSS活用の萌芽期から、企業・団体等でのOSS活用に関するコンサルティングソリューション提案、システムの構築、運用・保守サポートを行ってきた。OSSを利用したシステム提案を支援するITエンジニアリング室の金子直裕室長代行は、「OSSの有効利用には、CTCが提供する各種OSS関連サービスの活用は欠かせません。CTCでは、長年培ったオープン系システムの構築・サポートノウハウを活かし、企業・団体等でのOSS活用に対して、図1に示すようなトータルサポートサービスをワンストップで提供しています」と語る。

伊藤忠テクノソリューションズ㈱　ITエンジニアリング室
【左】室長代行（兼）ミドルウェア技術部長　**金子 直裕**氏
【右】ミドルウェア技術部　アプリケーション基盤技術課長　**河合 玲男**氏

また、ITエンジニアリング室の河合玲男アプリケーション基盤技術課長は、「トータルソリューションプロバイダーとして、システムのライフサイクル全般にわたって、全社の各部門が連携しつつ手厚いサービスを提供しているというのが最大の強みです。CSC（カスタマーサポートセンター）へお問い合わせいただくだけで、ハードウェア、OS、ソフトウェア（OSS、商用ソフト）のそれぞれのサポートチームが連携し、ワンストップで問題の解決を支援します」と述べている。

手厚いサポートサービスを支えているのがCTCの高い技術力だ。同社はOSSへの長年の取組みを踏まえ、LinuxやApache、JBoss、MySQL、PostgreSQL、Ruby等、OSSに精通したエンジニアを多数擁している。Java技術者の育成に加え、CTCでは早くから全社施策としてOSS技術者の育成・研修にも力を入れており、LPIC（Linux技術者認定試験）及びRedHat

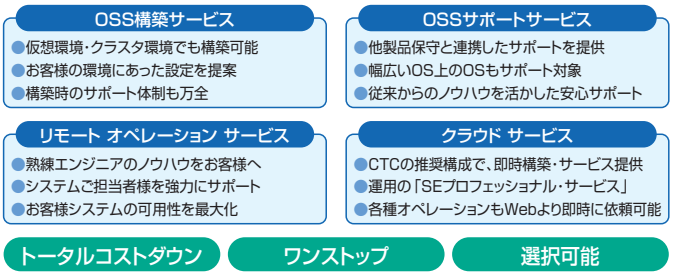

図1　CTCのOSSトータルサポートサービスの全体概要

を中心にOSS関連資格の取得を積極的に奨励している。現在、RHCE：84名、RHCT：222名、RHCVA：12名、LPIC-2：146名、同-3 Core：34名、同-3 Specialty：4名のほか、PostgreSQL技術者など数多くのOSS技術者を擁している。

OSSによるシステム開発に独自のSI標準体系「SINAVI」を活用

CTCは、OSSの活用からエンタープライズプロダクトまで、顧客のニーズやクリティカル度にあわせて柔軟に対応している。そして、プロプライエタリソフトウェアとOSSのそれぞれのメリットを活かしてつなぐことができるというのがCTCの強みである。このつなぎの部分や、SIにおける品質確保や生産性向上を支えているのが開発フレームワークを含めた独自のSI標準体系「SINAVI」だ。

SINAVIは、開発、インフラ構築、製品、保守、運用等、SIの多くをカバーするCTCの強みを活かしたSI標準体系である（図２）。SINAVIには、Javaや.NETと並ぶ開発環境としてRubyも採用されている。「CTCは、顧客企業のビジネススピードに応えるために、Rubyアソシエーション認定システムインテグレータとしていち早くRubyやJRuby、Ruby on Railsに取り組んできており、一般消費者向けサイトばかりではなく、顧客の業務を支えるシステムまで、幅広くRuby開発に対応しています。」（河合課長）

CTCは、OSSによるシステム開発においてもSINAVIを活用することによって、QCD（品質・コスト・納期）の改善を図っている。

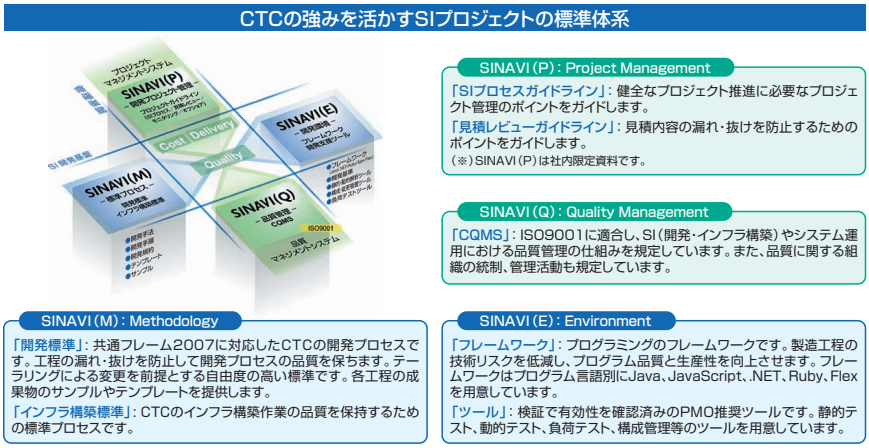

図２　OSSによるシステム開発に自社のSI標準体系「SINAVI」を活用

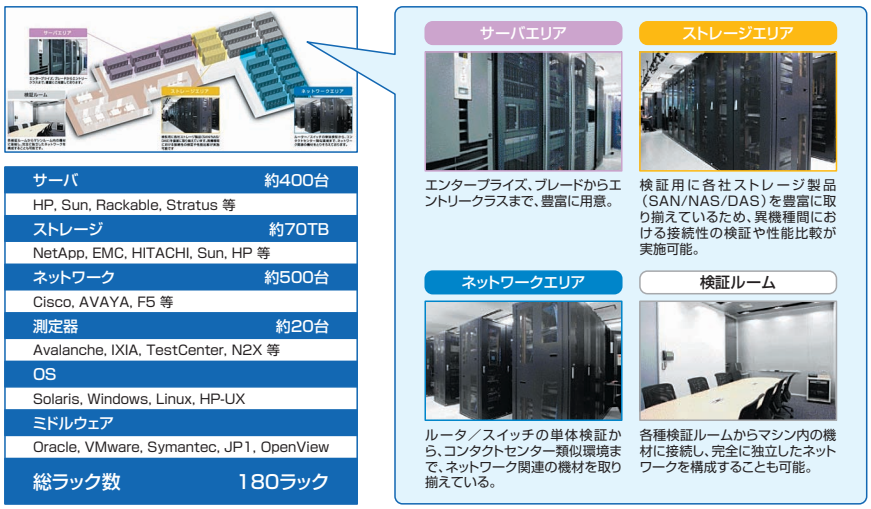

図３　CTC テクニカルソリューションセンター（TSC）の概要

最先端のICT環境での検証作業を可能にするTSC

OSSのトータルサポートサービスの展開にあたって、複数OSSミドルウェアの組合せ検証や、OSSシステムの可用性検証など、各種検証作業が行えるテクニカルソリューションセンター（TSC）を設けていることもCTCの大きな強みだ。

「“自分たちが使うIT環境に、より豊かな信頼性を”そんなお客様の声から生まれたのがTSCです。サーバ約400台、約70TBのストレージ、約500台のネットワーク機器など、最先端のマルチベンダー環境を用意し、豊富な経験・実績・技術力でお客様の検証を強力にサポートしています。」（金子室長代行）

なおCTCでは、各種Linux関連、RedHat関連、Ruby、Ruby on Rails、PHP、JBoss、PostgreSQL、MySQL、Xen、Javaを使った開発関連など、OSS関連の各種トレーニングサービスも提供している。